

委員からの意見(産業分野)

No.	発言者	意見
1	農業委員会 会長 坂部哲雄	<ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地の発生をいかに抑制するかが大事である。 ・しかし、現状の打開策としてはこれといってないのが現状である。国の進める利用集積(大規模化)などの施策は、稲作を想定したものであり、果樹で、かつ面積の小さい畑しかない蒲郡では適していない。総合計画の施策としては、原案のような形となると思われる。 ・現状と課題について、全体的によくまとめられている。
2	農業協同組合 理事 大村純代	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の所得向上、効率化によって後継者を増やしていきたいがハウスの老朽化などの問題もあり、支援のレベルアップを考えていただきたい。(今までも色々な支援をいただいているがハードルが高い) ・蒲郡市の農業は家族経営が中心であり、農業の魅力を高めるためにも家族経営協定を結び、働き方を考えてほしい。 ・今一番早急に対処しなければいけないのはイノシシ、ハクビシン、アライグマなどによる被害。市とJA、農業者が協力して捕獲強化する必要がある。 ・今年は小学生を対象に農業体験としてみかん切りを予定している。子供たちに農業を知ってもらいたい。 ・ファーマーズマーケットに向け、地域農産物のPRと売場づくりを考えていきたい。
3	蒲郡市観光協会 常務理事 長谷川恵一	<p>①【新たな施策内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「セーリングやシーカヤックなど、東三河スポーツツーリズム」関連記事も何かしらの追記はいかがでしょうか？ ・2026年 アジア競技大会での誘客目標があれば、PR広報活動。選手・関係者・プレス関係者の宿泊取組み。 ・上記と関係して、第四次に記載があった「コンベンション」を拡大し、MICEの誘致活動 ・クルーズの取組みは土木港湾課マターかもしれませんが、連携して何かしら次に繋がるような事業の記載 ・「新たな客層」が具体的には、個人客の誘致を指しているなら、明示してはいかがでしょうか？さらに、個人客誘致に併せてサイクリング等二次交通の整備も10年以上前からの課題です。 ・個人客の一層誘致に注力するならば、ウォーキング(まち歩き)、ランニングコース等の整備。 ・まち歩きをする上で、より魅力的なコンテンツの開発・みたとオアシスがまごおり、海陽ヨットハーバーセンタープラザの有効活用 <p>② 1-1健康と、1-4高齢者支援について</p> <p>当協会で、グランド・ゴルフ大会を企画実施・運営しています。市役所が縦割り行政であるため、致し方ない記載かもしれませんが、横断的な支援として事実、実施中のグランド・ゴルフの有効活用と、一層の充実を図る旨をどこかに追記することはいかがでしょうか？</p>
4	蒲郡商工会議所 会頭 小池高弘	<p>【産業全体について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上には2種類あると考えている。DX(デジタルトランスフォーメーション)による効率の向上と付加価値の向上。付加価値の向上をさせるには技術だけではなく、他と違うものを見つけることが大切である。この2点を行政としてどのように支援していくか。 ・蒲郡市は土地が限られているため、大企業の誘致は現実的でない。近隣に企業が誘致されたときにどのように蒲郡市の企業につなげるかが重要である。大規模な土地を用意できるわけではないので、大きな企業誘致するのではなく、研究所などを誘致してはどうか。 ・創業については市外の方が蒲郡で創業してもらう工夫が必要である。(観光での創業は蒲郡で行ってもらうなど) ・人口8万人という小規模だからできることがある。「豊かな生活」、「生活の質の向上」を検討する必要がある。 ・商店街については大規模店舗ではできない個店ならではのきめ細やかなサービスや商品をそろえ、ニーズにこたえることが必要では。 ・有効求人倍率は急激に下がったが、一方では人が足りない企業がある。外国人の受入れ、マッチング体制を整備していくべきではないか。 <p>【観光について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客は消費者ではなく、1日市民、2日市民と今後は考えていく必要があると考えている。 ・観光×1次産業、2次産業、3次産業など異業種連携をしていく必要がある。 ・インバウンドは数年たてば戻ってくると考えるが、元には戻らない。団体旅行から個人旅行に変化してきているため、対応が必要。 ・調査によると国内においても蒲郡のことを知らない、行ったことがない人が75%いる。国内にもまだまだ需要がある。 ・マーケティングに基づいたものプラス独自のものを創り出し観光政策を行っていくべきであると考えている。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボートレースはeスポーツなどができるパーク化にしてはどうか。
5	漁業振興協議会 会長 小林俊雄	<p>【全体に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに手厚く、子育てしやすいまちだと思つため、市外への発信を積極的に行っていくべきである。 ・若い人が住みやすいまちにしていくべきである。 <p>【水産業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あさりや魚の漁獲量が近年減少している。「きれいな海」になったが漁師にとっては「豊かな海」が必要。 ・全体的に漁業は所得が低いため後継者を確保するのが難しい。 ・設備投資や油代、社会保障を含む労働賃金の負担が増加しており、所得を上げることが困難である。 ・今後漁獲量が大幅に伸びることは考えにくく、現状維持をしていくのが現状。 ・大幅に収益を上げることが見込めないため大幅な設備投資ができない。 ・ブランド化によってメヒカリ、アカザエビの単価は上がった。深海魚をPRしていくのはよいが、ロットが少ないため全国に流通させるのは難しい。ブランド化していくためには魚屋の協力も必要である。